

〈2〉大谷地域活性化の 取組について

NPO法人 大谷商工観光協会の

理事長 大久保 裕之

1 はじめに

(1) 大谷商工観光協会について

NPO法人大谷商工観光協会は「宇都宮市民をはじめ、地域の住民、訪れる観光客等のあらゆる人々に対し、宇都宮市大谷地区および周辺の商工観光振興に必要な施設運営及び事業を行い、将来にわたる大谷地区の魅力的な発展に寄与すること」を目的として設立された組織である。

この目的の達成のため、「まちづくりの推進を図る活動」、「観光の振興を図る活動」、「経済活動の活性化を図る活動」を実施している。

| | |
|-----|----------------|
| 名称 | NPO法人大谷商工観光協会 |
| 設立 | 令和3年12月 |
| 会員数 | 52者（令和6年12月現在） |
| 役員 | 5名 |

(2) 大谷地域について

宇都宮市大谷町は「大谷石」を軸に成長してきた地域である。採石の歴史は古くは古墳時代までさかのぼり、また、その利用は明治に入り東京をはじめ関東一円に広がるなど昭和40年～50年代まで大谷石とともに大きく成長してきた。

しかし、昭和53年の建築基準法の改正や海外から輸入される低価格帯の建材に押され、最盛期には年間出荷高が約100億円、採掘業者数が約120社あった大谷石産業が、令和5年度では年間出荷高は約1.5億円、採掘業者数も4社と衰退した。さらに、平成元年の大谷石採取場跡地（以下「採取場跡地」という）の大規模陥没の影響等により、最盛期の観光入込客数が120万人を超えて

いた観光業も衰退し、それに起因するように宿泊業、飲食業等の衰退がはじまるとともに、農業分野においても耕作放棄の多い地域となるなど、地域全体の衰退へと繋がってしまった。

21世紀になると、大谷石文化が注目されるようになり、平成18年に「大谷の奇岩群」が国の名勝に指定され、平成30年に日本遺産の認定を受けるなど、大谷石が石材としてではなく、文化として価値のあるものとして認められていったことで、観光者数も増大してきており、飲食・物販店など10軒以上が新規参入するほか、採取場跡地を活用したアート空間の取組など、地域としての賑わいが創出されているところである。



写真1 大谷地域の景観

大谷商工観光協会撮影

2 大谷商工観光協会の法人化

(1) 法人化の目的

大谷商工観光協会については、大谷地域の商店や飲食店が加盟する任意団体として、昭和20年代末に発足したが、大谷地域に存在する様々な関係者（自治会や石材事業者による組合）などとの「つながり」は限定的であった。

そのような中、日本遺産認定などを契機に大谷地域に観光客による賑わいが戻り、地域でも点在大谷地域での関係者が面的につながること、大谷地域の関係者がより一体となって観光・産業を盛り上げていきたいという機運が高まっていった。また大谷地域の関係者が共通の目標を持つ中で、信用力の向上した組織となり、組織基盤が強

化されることで共通の目標の達成に向かいやすくなることなどの理由から、法人化を目指す動きが起こり、令和3年12月にNPO法人となった。

(2) 法人化を通じた変化

今まであった大谷商工観光協会の中心的な存在は古くから大谷地域で事業を営んでいた人たちである。法人化するにあたり新しい意見も取り入れていきたいということで、中心的な存在は若い世代の新しいメンバーで構成された。役員が変わっても、皆が大谷地域をより良くしたいという共通の目標をもっていたため、新しく中心的な存在となったメンバーを含め、新しくなった大谷商工観光協会を古くから大谷地域で事業を営んできた人がアドバイスやサポートをすることで、両者が融和し、より一層つながる組織となった。そのような結果、皆の意見が反映されやすくなり、多様な意見が集まりやすくなる組織となっている。

3 地域を盛り上げるイベントの開催

(1) クリスマスマーケットの開催

まず、法人化をした後に取り組んだことは、令和4年12月に初の試みである冬のイベント「大谷クリスマスマーケット FUN.FAN.OYA 2022」を大谷商工観光協会が主体となり、各者協力のもと実施したことである。

大谷地域の閑散期である冬期の観光客減少対策として行う大谷周遊をするきっかけづくりや、地域のつながりの強化と情報交流を図り、地域づくりの一助とするため、イベントの実施に至った。

1) 第1回開催（令和4年12月3日、4日）

変わりゆく大谷地域を近隣住民や県民・市民へ魅力を発信し、大谷ファンの掘り起こし、最大限に大谷を楽しんでもらうことを目的としたクリスマスマーケットでは、公園内に近隣店舗の飲食ブースやキッチンカーを誘致し大谷地域ならではの

食の楽しみや、大谷石アート体験ブース・工芸品販売ブースも誘致し地域の歴史文化に触れる機会を創出するなど、地域の関係者が実施に向けて一丸となり、2日間の開催で3,000人を超える多くの方が来場するような、大盛況を収めることができた。

2) 第2回開催（令和5年12月9日、10日）

令和5年の12月に第2回が開催され、ランタンバルーンを打ち上げるなど、大谷地域の固有の空間に打ち上げられたランタンの明かりにより、ここでもしか体験できない幻想的な雰囲気が満喫できる活気あふれたイベントとなり、来場者数は2日間で前回開催の約2倍にあたる、10,000人以上が来場する結果となった。

3) 第3回開催（令和6年12月7日、8日）

令和6年12月には第3回を開催し、より大谷町らしい演出や装飾に加え、アート要素をプラスし、「光の丘アートイルミネーション」エリアを設置するなど、音と光でも大谷町のクリスマスを楽しんでもらった。13,000人を超える来場者数となり、開催するたびに賑わいが拡大し、冬の風物詩へと確実に成長している。



写真2 クリスマスマーケット

大谷商工観光協会撮影

(2) 盆踊りの復活

次に取り組んだのは、大谷地域で約半世紀前まで行われていたものの、その後途絶えてしまっていた盆踊りの復活である。

盆踊りを復活させることで、大谷地域の振興や大谷石文化に対する愛着の醸成が図れるのではと考え、大谷商工観光協力が会が発起人となり、「大谷夏祭り FUN. FAN. OYA 2023」として令和5年8月に復活させた。

1) 第1回開催（令和5年8月19日）

地域に古くから伝わる仕事歌である「石山の唄」の合唱や、地元の子供たちの演舞など、地域文化を大切に継承しつつ、地元自治会や近隣店舗・人気のキッチンカーの飲食ブースや、大谷石細工などの販売ブースを誘致したほか、本格的に櫓を組んで地元のお囃子保存会の方々と盆踊りの復活を実現した。また、地域では定番の「日光和楽踊り」の歌詞を大谷独自の歌詞にアレンジして地元カラオケ愛好会の方々が披露するなどの取組も行うとともに、盆踊りの後には子供たちも楽しめる音楽を流して、子供から大人まで楽しめる大谷独自の盆踊りを演出した。

2) 第2回開催（令和6年8月24日）

2回目の開催となる令和6年8月には、イベント内容を拡充し、更なる地域振興につなげ、将来的にも未来の子ども達に引き継いでいくための基盤を強化するため、新たな収入源の確保に向けた取組としてクラウドファンディングを立ち上げた。大谷商工観光協会の会員が販売をしている名産品などを返礼品とするクラウドファンディングには70人の支援があり、イベントの資金面の支えとなっただけでなく、インターネットを通じて多くの方々に自分達の取組、ひいては大谷地域を知っていただく機会になり、大谷地域のファンとして地域に関わる関係人口を増やすことにもつながった。



写真3 大谷夏祭り

大谷商工観光協会の撮影

(3) イベント名に込める想い

大谷商工観光協力が実施するイベントには「FUN. FAN. OYA」というタイトルをつけている。大谷を楽しみ！大谷を好きになっていただき！たくさんの大谷ファンを構築していく！という意味を込めている。

4 地域内外と連携した事業

(1) 大谷コネクトの管理運営

さらに、大谷商工観光協力が中核となった共同事業体が、指定管理者として、宇都宮市の施設である大谷観光周遊拠点施設（愛称：大谷コネクト）の管理運営を担っている。大谷コネクトは大谷地域の新たな観光・周遊の拠点として、地域のシンボルとなっている大谷石の建物「旧大谷公会堂」を活用して整備された施設で、「ビジターセンター」、「多目的スペース」とともに令和5年11月に供用開始となった。

「旧大谷公会堂」は国登録有形文化財であり、一般公開を行っているほか、イベントスペースと

して貸館を行っている。「ビジターセンター」は大谷石をふんだんに使った建物であり、大谷地域内の観光施設、飲食・物販店等の観光案内や宇都宮市内の情報発信を行っている。大谷石を敷き詰めた屋外スペースである「多目的スペース」も、イベントスペースとして貸出を行っており、週末を中心に様々なイベント等が実施されている。

指定管理者としてただ施設を管理するだけではなく、大谷地域の賑わいにつながるイベントの誘致や実施、大谷地域の魅力発信を行っている。

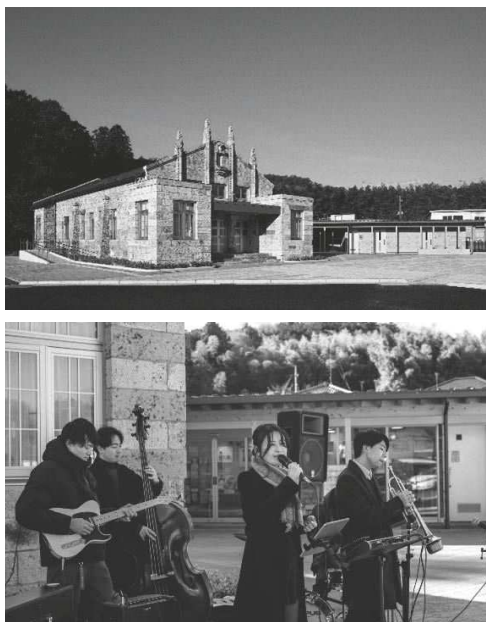


写真4 大谷コネクト

大谷商工観光協力会撮影

(2) 周遊モビリティの運行

次に、周遊モビリティの運行管理も実施している。大谷地域では周遊環境の向上のため、行政が主体となり、主要な観光施設をつなぐモビリティとして電気自動車である「グリーンスローモビリティ」の運行をしている（写真5）。そのグリーンスローモビリティの運行管理を大谷商工観光協力会が実施しており、決められたルートの運行のみならず、大谷地域でしか見られない壮大かつ特異な景観見学や、ここでしかできない充実した高付加価値な体験を提供するツアー開催も企画検討

しているところである。



写真5 グリーンスローモビリティ

宇都宮市撮影

(3) 定例会による情報共有

また、定例会を開催している。定例会ではイベントの企画や会員の情報共有の場として議題を持ち寄って話し合いをしており、毎回活発な意見があり、有意義な会となっている。また、それら会議から発展して、鹿沼市や益子町など宇都宮市外の他の近隣地域との交流も実施されるようになり、地域間の連携の強化にもつながっている。

5 取組の効果

このような取組の結果、大谷地域が一体となったイベントの開催が増えることで、大谷地域の様々な関係者が一体感を持ち、また、大谷コネクトを周遊拠点のハブとして、来訪者が大谷地域内の様々な施設を周遊する流れも見られており、今までは点と点でつながっていた関係者が、面でつながるようになってきた。

さらに、大谷商工観光協力会を中心に、これまで以上に地域活性化の機運が高まっており、事業者によるアート系事業や飲食・宿泊事業など新たな取組も芽吹き始めてきているところである。また、会員同士が連携をして新たな事業を実施するなど、今までになかったプラスアルファでの取組も見られるようになった。

また、取組の拡大とともに地元の中学校などの

子ども達との交流も増えていった。活動の中で、中学校でも「まちづくり隊」としてまちづくりに興味のある子ども達がいることがわかり、そのような子ども達がイベント開催の手伝いなど協力してくれることで、手伝いを通じて未来を担う子ども達がまちづくりの面白さに気づき、故郷への愛着を醸成してくれるきっかけにもなっている。

また、大谷商工観光協力が、たとえば行政からの情報などを集約して会員に対して共有するなど、他の団体と会員とのハブとなることで、情報が漏れなく会員に伝わるできるようになった。大谷地区内でのイベント開催の情報などについては、その情報を受け取った各会員にSNSで周知をしていただけるなどして、さらに多くの人に情報が拡散されるようになった。

このような様々な取組の結果、大谷地域への来訪者についてはコロナ禍の影響により一時的に落ち込んだものの、コロナ禍前の水準に戻っており、現在も多くの来訪者ににぎわい、今後も来訪者の増加が見込まれる状況となっている。

6 大谷商工観光協会の課題

さまざまな取組を通じて、課題も見えてきた。

(1) 運営体制の強化

さまざまな活動を実施していく上で、大谷商工観光協力が担う役割が増加している。より多くの活動に対応するためには、事務局機能の向上や、イベント等開催時に実働できる多くの人が必要となっているが、会員は本業も行いながら活動している人が多くいるため、人手の確保が難しいことが課題となっている。

(2) 会員等の連携強化

以前に比べて関係者間の「つながり」や「まとまり」が増えてきたところだが、更なる大谷地区

の発展には今後とも「つながり」や「まとまり」が自然に深まり、住民の皆さんや関係者とも交流の機会を増やすような取組を実施していく必要がある。

(3) 活動資金の確保

主な収入源について、会員からの会費、賛助会員からの会費や寄附金などから成り立っている。

今後ともさらに活発に活動を行っていくため、また安定的な運営の継続のため、会員や賛助会員を増やすことに加え、令和6年度に新たに実施したクラウドファンディングなど新たな収入確保の取組を進めていく必要がある。

7 今後に向けて

地域振興・活性化を会員全員で行うため、大谷商工観光協会内に専門部会を設けて、各会員の得意分野で活動を行うことで、より大谷地域を活性化する取組がはじまっている。また、各部会が連携することで今までにない新たな事業が生み出されることが期待されている。

部会の内容は主に以下のとおりである（図1）。

○アート部会

- ・地域にアートを根付かせる
- ・アートイベント企画

○ツアー企画部会

- ・地域内におけるツアー企画

○景観まちづくり活動部会

- ・環境整備（草刈り、清掃）
- ・観光スポット開発、維持管理

○地域連携部会

- ・行政、団体との情報共有、調整
- ・各部会との連絡調整

○食部会

- ・地域の特性を活かした商品開発
- ・イベントへの出店

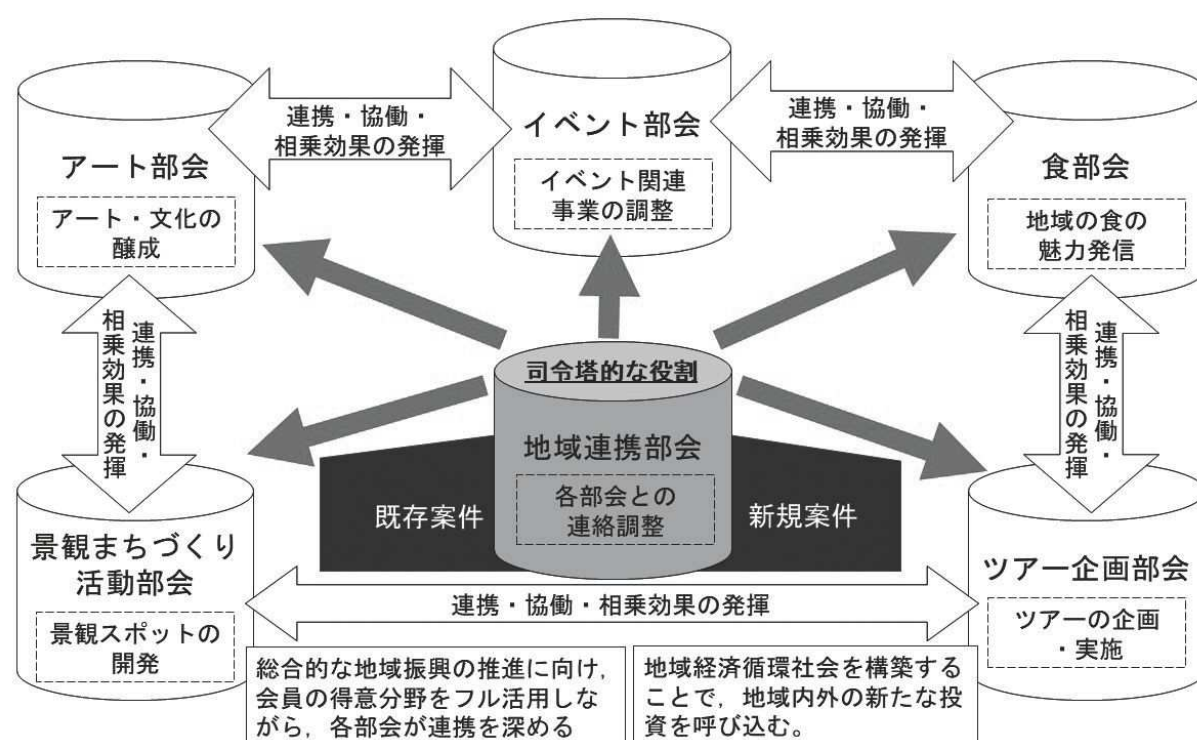


図1 部会イメージ

大谷商工観光協力会作成

○イベント部会

- ・夏祭り，クリスマスマーケット企画運営
- ・イベントの企画

活動資金について，令和6年は新たな活動資金調達策としてクラウドファンディングを成功させることができた。今後も大谷商工観光協力会の安定運営に必要な活動資金調達について，引き続き新たな取組を模索している。

8 おわりに

大谷地域は大谷石を中心に形成された自然と石を掘る・彫る人の営みが共生する，長い歴史を持った魅力的な場所だが，住み続けていると，その魅力を当たり前のように感じてしまう。大谷商工観光協力会はその活動を通じて，大谷地域に来てみたい・来てよかったという人を増やすことはもちろんのことながら，宇都宮市民をはじめ大谷地

域の住人にとって，自身が住んでいる地域はこんなにも魅力的な町なのだと再認識を持ってもらいたいと考えている。

地域に住む住民が愛着をもって生活してもらえる町で，たとえば子ども達が大きくなって，一度外に出たとしても，また戻ってきたくなくなるような町，そのような町を作っていくため，町の中にとると当たり前で気づかないような視点についても外部から取り入れ，また大谷地域周辺の地域も巻き込みながら，理想とするまちづくりに一丸となって取り組んでいきたいと考えている。